

No. 1

税についての授業で中世フランスにあったかえる税というものを知りました。かえるの音がうるさくて眠れない領主のために領民が交代で夜に水面をたたきかえるを黙らせるという、労働で払うとてもおもしろい税です。僕は「なぜかえるの声をうるさいと思っけない領民までそんな労働をする義務があるのか」と思いました。母に話すと「領民は有事の際に領主に守ってもらわなければならない、自分の保障のためのメリットがあるから、領主から受ける恩恵があるからだ」と言われました。シンプルですがこれ以上納得できる理由はありません。領民だけで安定した生活を送り続けられる社会なら領主なんて存在はなかっただろうし、有事の際に領民を守れない領主なら領民はこんな馬鹿げた労働に時間を割いて領主の言う事を聞かないと思います。権利には必ず義務がとれない義務には必ず権利がともないます。納税は国民としての最低限の権利を得るための最低限の義務だとは

No. 2

理解できます。ただ僕は、その権利と義務のバランスが同じであるべきだと思うのですがそれはすごく難しいです。僕には先天性の疾患があり、人と同じ生活を送るだけでも高額な医療費がかかるので、アメリカの様に公的医療保険制度がない国に住んでいたら家庭の収入の範囲内ではやっていけないし日本に産まれていなければ疾患すらわからずにとくに死んでいたかもしれません。僕が税について学んで心配になったのは、自分が健康な人よりも多くの恩恵を受けていて、果たしている義務以上の権利を受けているから不公平だと思われる対象になるのではという事です。実際に僕は所得税や資産税の様により経済力のある人に負担を大きくして格差を少なくする事に否定的な意見を持っていました。高い所得を得たり多くの資産を持つに至るまでは必ず人並み以上の努力や投資があるはずなのに、なぜそれをしていない人に分配しなければいけないのか、アリとキリギリスの話の

No. 3

最後にアリが蓄えた食料を分けてキリギリスを助ければ、キリギリスは次の夏も働かないに決まっていると思うからです。やがて不公平感を募らせたアリの勤労意欲も下がり全員がキリギリスの生活を望む事になるととても危険なシステムの様に感じます。キリギリスだらけの社会で格差をなくすには全体の保障の質を落とすしかない事をわからせるため、ある程度「果たした義務に相当する受けられる権利」の格差は必要だと思います。だから僕は全ての個人が選択して消費した分にだけ課される消費税の増税に反対するべきではないと思います。これ以上理にかなって平等な税が他にあるでしょうか。安定した税收である消費税、自分も納めている消費税が、恩恵の面で少しひけ目を感じていた社会保障制度を支えていると知り安心しました。学習とは社会を知る権利でもあり社会を担っていくための義務でもあるのだと思います。